

恩

師からの便り

若き日のわれらが、授業、ホームルーム、進路指導など
困らせたり、怒らせたり・・・
懐かしいあの頃の日々、心の拠りどころとした先生方から
温かい便りが届きました。

- 大矢 邦彦 先生 辻村 秀夫 先生
- 岩田 孝志 先生 森 俊勝 先生
- 小池 秀男 先生 杉山 清治 先生

同

級生

高校時代、卒業後、そして今

- | | | |
|--------|---------|---------|
| 昭和49年卒 | 安 藤 朋 子 | 古 井 秀 彦 |
| | 古 田 茂 美 | 小 塩 隆 司 |
| | 日比野 隆 司 | 服 部 俊 治 |
| 昭和59年卒 | 西 村 直 也 | 高 橋 浩 子 |
| | 三 輪 知 生 | 大 西 晶 子 |
| | 長谷川 建 一 | |
| 平成6年卒 | 薫 田 健太郎 | 河 田 淳 |
| | 松 野 大 輔 | 竹 中 友紀子 |

昭和49年卒恩師



大矢 邦彦 先生
(昭和44年～昭和54年 在職)

昭和49年卒の酒向和子(旧姓堀)さんから、長年のご無沙汰をお詫びしながら、同窓会誌への原稿依頼の手紙を頂いた。20年前の平成9年

3年2組のアルバム写真

にこの学年の国枝幸徳君の依頼で原稿を寄せたことがあり、二度目のこととして、どのような内容でと悩んだ。この写真は、昭和49年卒の皆さんの卒業アルバムに載っている3年2組の1コマです。後ろの黒板で説明をしているつもりが担任の数学教師大矢邦彦です。
如何でしょうか？ 仕掛け人は？
「事前の打ち合わせ」とか、「誰が演出して舞台監督をしたか」とかは全く覚えておりません。

私は、この学年の1年先輩になる昭和48年卒の皆さんを、学年進行で1、2、3年と持ち上がって担任して、次は又1年の担任という流れに乗るつもりでいたのですが、乗り損ねて留年・落第をしてしまい、また3年の担任という厳しい試練の一年でした。

私はこの学年の担任としては初めてで、「卒業までの一年で答えを出せ」と云うけれど」の戸惑いの連続でした。生徒諸君も、急に《継父》が舞

い込んできたようで、慣れないムードの中での学生生活だったことでしょう。

私は常々、岐阜高生は、「どんな環境の中にあっても、自分を見失わず将来を見据えて巣立っていく自己育成力」を持っていると思います。3年2組の皆さんも、立派な答えを出して現在を迎えておられます。

尤も、青春時代は「規制の概念から踏み外したい、打ち破って羽ばたいてみたい」という潜在的な願望を誰でも持っているものです。毎日の厳しい学習から逃れて、こんな授業もしてみたかったとの夢を見ているのかな？

また、「二度でいいから男女クラスになってみたかった」と言う声も良く聞きました。3年間男子クラスというやけくそ気分も混じっているのでしょうか？

ある卒業生が、成人して職員室を訪ねてきたとき「先生！一度在学中に職員室でタバコを吸ってみたかったでしょうか？」



3年2組クラス写真 (昭和49年卒業アルバムより)

た」と嫌らしていたことなども思いだします

この写真が、「同窓生の諸氏が岐阜高校の青春時代に思いを巡らし、苦楽を共にした三年間を語りあう起爆剤」になればと。

教師不在というか、教師のチェックもなくアルバムが発行されていく当時の教育現場は、今の学校教育を取り巻く状況からは思いもつかぬ時代であったのですね！

丹羽章前校長先生、南谷清司現校長先生も昭和49年卒とのこと。過日岐阜高校にお邪魔したときに、当時の思い出をいろいろ聞かせていただきました。四十数年のタイムスリップをした懐かしいひとときでした。この場をお借りして御礼申しあげます。

この同窓会誌を飾るに相応しい先生が多い中、諸々の事情でそれが叶わず、飛び入りの担任の私が汚したことをお許しください。

最後になりましたが、同窓会会員のみなさまのご健勝と、岐阜高校同窓会の益々の発展を祈念いたします。

昭和49年卒恩師



辻村 秀夫 先生
(昭和44年～昭和49年 在職)

今回の会誌原稿依頼は今年度岐阜高同窓会総会の幹事を務められる丹羽章さん（昭和46年度の入学で、昨年春まで母校岐阜高校の校長、46年

昭和46年度林間学習を想う

入学時は1年8組・私が担任でした）によるものでしたが、この学年は私にとつて特に印象深く、現にあれからもう47年たつというのに担任クラスの数名からの年賀状などの文通が続いています。ただ誠に残念なことに、一昨年6月に、久しぶりに懐かしい便りをおくれた宇佐美（旧福田）弘子さんが、昨年8月に亡くなられたという知らせでした、あれほど元気で明るい方だったのにと惜しまれてなりません。私は岐阜高校には5年間という短

い勤務でしたが、「生物」担当のため担任も当然ながら1年生ばかり、従つてあの林間学校の研修には毎年参加しておりました。
46年度の研修を当時の写真とメモから振り返ってみます。

あの当時、学舎へは学校から約6時間半のバス旅行でした。途中のバス内では歌を歌つたり、テーマを決めて話し合つたりでしたが、司会者（福田さん）もその一人でした。の巧みなりードのもと、楽しく上手にまとめてくれ、

さすが岐高生だと思つたことです。

学舎につくと立派な建物に感激しながら早速入舎式、その後班別に部屋に分かれます。入浴、夕食のあと翌日の登山のためのおにぎりづくりを楽しい雰囲気ですませ就寝、でも最初の夜はなかなか寝付かれず監督の私たち教師が一苦勞しました。

翌朝の7時半、錫杖岳を仰ぎながらすがすがしい冷気の中の朝会とラジオ体操、その後、3時間半以上か

けて近くの焼岳・中尾峠までの登山ははじめのうちこそ歌を歌つたりしながらの歩きでしたがやはり登山、途中で落伍するものも出て引率者泣かせもありました。峠で昼食し下山、下山後男子生徒諸君の多くと学舎近くの大きな露天風呂に入つて騒いだ楽しいひと時が記憶に残ります。

2日目は1時間ほど歩いたところにある奥飛驒ロープウェイ駅下での飯盒炊飯、清らかな流れを使つてのカレー作り、苦勞しながら、初めての飯盒でのご飯炊き、お焦げができたりで賑やかな楽しいひと時でした。なかには、この時期すでにカレーのレトルト食品があつたよう



林間学舎の様子（昭和49年卒業アルバムより）

というのもあつて驚きました。大きなスイカを持参したものもありました。
当日の夜はキャンプファイヤー、大きなたき火を囲んでの大イベント、歌や寸劇、男女が手を取り合つてのフォークダンスなどが催され最後の夜を楽しみました。

最終日、次の班の到着を待ち帰路に、岐阜着が8時半、ご父兄の出迎えなどもあつて解散。

林間学習は記憶に残る楽しい行事でしたが、これも全国でも稀なあのよ

うな立派な施設があつたればこそ、さすが岐阜高校でした。
私はその後、この年度の諸君とともに昭和48年の岐阜百年祭に参加した後、49年春、この年度から始まった学区制実施の余波ともいえる教員の大規模配置換えで多くの先生方とともに離任、その後は県教育委員会6年、教頭、校長時代を経て平成5年岐阜高校を最後に定年退職しました。

昭和7年生まれの私は、今年満85歳になります。私たちはまさに戦中・戦後を大変な苦勞をしながら生き抜いてきた世代で日本のひどい貧困・食糧難の時代を経験しました。

今の日本の繁栄はいつまで続くのでしょうか、歴史は繰り返すともいわれます。二度と戦争に巻き込まれない日本であつてほしいと願うばかりです。

最後になりましたが、創立百五十年を真近にする岐阜高等学校の益々の発展と、同窓生の皆様のご活躍を心からお祈り致します。

昭和59年卒恩師（職員京都旅行）



岩田 孝志 先生(後列右端)

(昭和54年～平成2年 在職)

あの頃（一九六〇年と一九八〇年代）の 岐阜高校

現在の岐高は、白く斬新なデザインの校舎に変貌し、あの頃の面影はほとんどない。今、母校のガリレイ像の前に佇めば誰もが隔世の感を禁じえない。ただ所在地は昔の大縄場のままであるから、長良川と堤防とグラウンドは変わっていない。嘗ては運動場のすぐ南側に理科棟と中校舎があつて、その南に狭い中庭を挟んで木造2階建ての本館があつた。その頃は、この本館の更に西南の隅に朽ちかけた木造の図書館があり、



1年生のときの林間学舎で

正門を挟んだ東には華陽高校の給食棟まであつた。自家用車で通う先生はほとんどなく、広い駐車場など必要とされない良き時代であつた。東側は南から講堂兼体育館に北校舎と小さな柔剣道場があつて、その北はすぐテニスコートになつていて、道場の窓から長良川の堤がよく眺められた。その堤防が昼休みともなれば、校歌や応援歌の訓練場と化し、初々しい1年生が整列させられ、応援団に気合を入られていた。

本年幹事学年の80年代には、本館が既に4階建ての鉄筋校舎になつていたけれど、土足のままだ昔と同じ。新体育館ができ、奥飛驒の中尾温泉には洒落た林間学舎もできていた。林間学舎は、1年全員と2年の有志が夏期休暇の前半に2クラスずつバスで出かけた。焼岳登山とオリエンテーリングが主なる活動で、飯盒で飯を炊き、キャンプファイアに興じ、澄んだ夜空の星を仰いだ。焼岳の山頂は当時も盛んに煙を吐いていたが、先生も生徒もさほど気にもかけなかった。



1年生の時の遠足(谷汲山)で

修学旅行は、広島と宮島コースで昔と変わりがなかった。ただこの幹事学年は松江の宿で安来節を聞き、日御碕や出雲大社を経て広島という新企画の旅となり、三瓶高原にも立ち寄った。三瓶高原で馬に乗った先生方は気分良く新味があつたかも知

れないが、三瓶山は何の変哲もない山で、生徒達はただくたびれ儲けをしただけ。金華山を知る「華陽の健児」がわざわざ山陰まで出かけて登る山ではなかった。

そういえばこの学年の1年の遠足は谷汲山で、華嚴寺の裏の道なき道を登らされていた。今思えば、1年の焼岳と谷汲山、2年の三瓶山と、「山登り」に縁の深い学年であつた。羊腸たる山路を、歯を食いしばり、額に汗して、一步一步踏みしめ、山頂でホッと一息ついたら、また追われるようにして下り、膝が笑い出す。貴方方の人生が「山あり溪あり」の厳しいものになると予見されていたからに違いない。

山路を登りながら、こう考えた。智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。とかくに人の世は住みにくい。

(夏目漱石)

昭和59年卒業恩師



森 俊勝 先生
(昭和55年～平成3年 在職)

林間学舎の夏

岐阜高校を離任して、およそ四半世紀が過ぎた。私の勤めていた頃の校舎は正門を入ると直ぐ玄関があり、生徒は校舎の両側にある通用口から土足のまま教室

に入った。校舎はコンクリート柱の扉とヒマラヤスギ、つつじの植え込みなどによって道路と隔てられていたが、なぜか道行く人の声がよく聞こえ、教室からは教師が授業する声も外に漏れた。だが土足で闊歩できた校舎をはじめ体育館等の建物は、数年前に白亜のモダンな校舎に建て替えられ、朝な夕なに目にしたかつての風景はなくなつた。しかし、昭和43年以降に入学した生徒なら記憶にあると思うが、中尾の林間学舎は今でも健在である。

毎年、夏になると1年生は3泊4日の日程で林間学舎へ行った。飯盒炊きさんをして食事を作ったり、火を焚いて寸劇をやつ

たり、歌ったり、露天風呂で汗を流したりと、学校では味わうことのできない楽しい時間を過ごした。

そのなかでも最も思い出に残るのは西穂高岳の独標への登山であろう。その前夜は十分に睡眠をとって早朝の出発に備えられるよう、いつもより早めに床に就くが、枕が替わるとなかなか眠れないものである。

昭和55年と昭和56年は1年生の担任であつたのでクラスの生徒と一緒に登山をした。山行は天候がよければ楽しみも倍増する。この2回は天候に恵まれた。

林間学舎は北側に外ヶ谷と南側に割谷という2つの谷に挟まれた台地の上にある。この外ヶ谷に橋が架かつていれば対岸の鍋平高原のしらかば平駅から第2ロープウェイにて西穂高口駅に到着できる。当時は橋が架かつていなかったので学舎の前の道を県道まで下り、蒲田川沿いに車に注意しながら新穂高温泉駅まで上つて行った。登山前の準備運動にしては、結構汗をかいた。ロープウェイは新穂高温泉駅(1,117m)から鍋平高原駅(1,305m)までの573mを僅か4分で上り、標高1,305mの地点に達する。

ここから徒歩で第2ロープウェイのしらか

かば平駅(1,308m)まで行けば、千石尾根の上空2598mをわずか7分で西穂高口駅(2,156m)に到着できた。山麓の新穂高温泉駅からの標高差は1,039mである。もし第2ロープウェイがなかったら、西穂高岳独標への登山は実施できなかったと思う。別の時期に、このロープウェイに沿って徒歩で下山したことがあるが、途中の急斜面を迂回せねばならず2時間30分程掛かつた。

展望台からの眺めは雄大であつた。学舎の正面に立ちはたかる錫杖岳を始めとして左から笠ヶ岳、双六岳、槍ヶ岳、北穂高岳、奥穂高岳、ジャンダルム、間ノ岳、西穂高岳の2,000〜3,000m級の山々が見渡せた。

ここから、いよいよ登山が始まる。千石園地を後にしてコメツガ、オオシラビソの針葉樹の茂る林の中を下りて行くと木々の間から先程の山々が再び現れる。水場を過ぎると急峻な上りになり、登山経験の少ない生徒はだんだんと寡黙になる。でも若さがあるからつづら折りの道を、汗を拭いながら一



歩一歩と登つて行く。やがて木々の間から西穂高山荘が現れる。穂高口駅から1時間30分の距離である。樹林帯はここまでで、少し

休憩を取つてこの先の急な坂を登れば丸山(2,452m)である。所々に、ケルンが目につく。ハイマツが這うように広がっている。高山植物のシチノキンバイ、ハクサンイチゲ、ハクサンフウロウ、ウサギギクが花を咲かせている。飛騨と信濃の山々が一望できた。上高地の大正池や赤い屋根の帝国ホテルも目に入る。平坦な道を先に進むと独標が間近に見えてくる。さらに急な斜面を登り詰めれば岩峰は目前に迫り、狭い岩尾根をたどれば独標の下に着く。足場はしっかりしているからこの垂直に近いと見えた岩壁を登れば独標の上に出る。西穂高岳へ続くピラミッドピークと言われる小さな頂が狭い尾根の上に並び、西穂高岳への登山を阻んでいる。滑落したら命にかかわることになる。背後には奥穂高岳から前穂高岳への吊尾根の稜線が続いている。

登頂したら天候の変わらないうちに下山する。上りと下りでは景色が変わるの道の間違えないようにする。西穂山荘から独標までは上りで1時間15分かかったが下りでは45分、さらに西穂高口駅まで1時間15分。第2ロープウェイでしらかば平駅に降り徒歩で、蒲田川沿いの県道まで行き、林間学舎に戻つた。

あれから、およそ35年の時が流れ外ヶ谷には北アルプス大橋が架かり、林間学舎としらかば平駅とは短時間で移動できるようになった。一度、岐阜高校の遺産でもある林間学舎を訪ねてみてはいかが。

ここから徒歩で第2ロープウェイのしらか

平成6年卒業恩師



小池 秀男 先生

(平成3年～平成17年 在職)

あのころ

仰角45度。訣別の思いを込め、学帽を投げる。正面には2月の伊吹山。眼下を行く長良川。忠節橋。18歳。出来損ないの青春の真っ只中。

二度とここに戻ってくることはないと思っていた。

39歳の春、思いがけない転勤の内示に戸惑う。

赴任した最初の日、北舎への薄暗い通路の向こう、満開の桜の堤防を背景に、うつむいて目交^{まかひ}を過^よる少年の幻。それは一つの啓示。

「彼」のために僕は戻ってきたのだ。その細い肩を抱いて「君は一人じゃない」と言うために。

今にして思えば、うつむいていたのは「彼」だったのか、自分だったのか。バブルの狂乱は、人の心に荒廃を残した。「額に汗する」尊さを蔑み、したり顔で「濡れ手に粟」を語る賢しら。人を人とも思わぬ傲慢が罷り通り、高校生にもその累が及ぶ。言葉が届かないもどかしさは、国語教師にとつては致命的で、思い惑う日々の中、僕は確かにうつむいていた。

そして、ここで君らに出会った。

学びに向かう真っ直ぐな眼差し。教室で、図書館で、君らの眼差しに洗われる度に、かくてはならじと未熟な己を鞭打った。知ることは喜びであり、学ぶことは次の学びを呼び寄せること。君らの眼差しに教えられ、励まされて、それを僕の思いとした。やがて3年が経ち、君らは巣立ち、僕は残った。

さらに十余年が経って、岐阜高校を去ることになった日、様々な感慨が

胸に来たが、何より鮮明に蘇ったのは、君らのあの真っ直ぐな眼差し。

教育が人と人との間にある営為なら、その効果は双方方向に及ぶ。教えることは学ぶことであり、学ぶことは教えること。君らがそれを僕に教えた。

ここで過ごす二度目の青春が終り、僕は岐阜高校を卒業した。生徒として3年、教師として14年、都合17年間の高校生活だった。

僕は生まれ変わり、もはやうつむい

てはいなかった。君らのおかげで、初めて岐阜高校が母校になった。

クルクルと空に舞った帽子は、折りからの朔風にあおられてブーメランのように反転し、少し後ろを歩いて来たオバサンの足元に落ちた。バツの悪い笑顔で手渡され、バツの悪い笑顔で受け取る。アンチクライマックスの結末。青春の幕間劇の意味は、四半世紀を経て、解けた。



2年生のクラス。文化祭「おちゃのこさい祭」



平成6年卒業恩師



杉山 清治 先生

(平成元年～平成6年 在職)

ともに学んだ岐阜高校

の皆さんと先生方には大変感謝しております。しかも教師となり担任として初めての卒業生を送り出した学校であり、「特別な想い」をもっていきます。この時の卒業生が、今年度の担当幹事の皆さんです。あのころの私は、学習指導をはじめ部活動、クラブ活動（C A）、岐高祭、林間学舎など、生徒と一緒にやってがむしゃらに切磋琢磨していました。特に文化祭の職員劇、林間学舎での出し物は率先して楽しんでいました。今から思う

と夢のような日々でした。私がこんなにも幸せに過ごせたのは、生徒の皆さんと先生方のお陰であったと、岐阜高校が私にとって過去の思い出となった今、痛感しています。

岐阜高校への内示を受けたのは、数学期間となった4年目、岐阜農林高校に勤務していた時のことです。内示をいただいてから新任式までの間は、毎晩「チャート式」で、隅々まで勉強し直しました。そして、赴任早々に

鍛え上げられたのが生徒からの質問でした。当時職員室の机列は教科ごとの島に分かれており、生徒は、その教科の先生であれば自由にどの先生にでも質問できるようになっていました。そこでの質問攻めには、色々な意味で勉強になりました。副教材4ST EPだけでなく、塾の教材、添削問題など内容は多岐に渡りました。一番苦戦したのは、2年生で担任をしたA君の質問でした。A君は毎月「大学への数学」の「学コン」の問題を解けると

ころまで解いて質問に来るのです。当時の私は「生徒なんぞに負けるもんか」「解けない問題などない」という気概を持って励んでいました。でもどうしても解けない時は、学校を抜け出し、近くにあった山中食堂へ行き(管理職の許可を得ず)、味噌カツ定食を食べながら解いていました。学校では解けなくてもなぜか山中食堂へ行くこと解けたからです。

このような生活を送った5年間でしたが、中でも最も印象深く残っているのは、最後の担任学年となった平成5年度(今回の担当幹事)の3年生です。初めての3年生担任で、至らない点ばかりでしたが、学年主任の大野先生をはじめ、学年団の先生方、そして何より3年6組の生徒たちに助けられていながら、何とか卒業式を迎えることができました。あの時の卒業式後のホームルームで、生徒から「先生今までありがとう」という言葉をもらった時のそれまでに感じたことのなかった喜びは今でもしつかりと覚えています。教師になってよかったなあと真に感じた瞬間でした。

また、センター試験が終わり、大学入試の結果が出揃うまでは色々な

ドラマがありました。自由登校になってからも登校し、最後の最後まで百折不撓の精神で粘り強く頑張った生徒たちもいました。そんな頑張る生徒たちと時間を共有できたことは今の私にとって心の財産になっていきます。ただ、今思うと、あの時こうすればよかった、ああすればよかったと、自責の念を覚えてしまうことも多くありますがどうぞご勘弁を。最後に、岐阜高校3年間の学びが、卒業生の皆さんにとっての糧となっていることを願っています。

ああ、また皆さんと一緒に何かを創り上げていきたいなあ。



演劇という宝石

安藤 朋子
(昭和49年卒)

わたしが大学進学のために上京した1970年代中頃は、政治運動こそ下火になっていましたが、それと共振するかのように芸術全体が大きな地殻変動を起こしている時期でした。中でもわたしは、東京を現場とする演劇界に足を踏み入れ、唐十郎、鈴木忠志、別役実、寺山修司ら、めくるめく才能が次々に開花していくのを目撃しました。既成の価値観が打ち砕かれ、見たこともない眩い宝石が自分の眼前に差し出されたのです。わたしが特に感銘を受けたのは劇作家であり演出家の太田省吾です。彼の主宰する「転形劇場」で演劇のしごとをしようと決意しました。

父はわたしを、「河原乞食になるのか」と勘当しました。愛情ゆえの言葉であり、父の厳しさには感謝しています。けれども「演劇」という言葉には胡散臭いイメージがあるということとを、まずは自分の両親からの強烈な拒絶反応で思い知りました。

世の中に放り出されたわたしは、その後も演劇への冷たい視線と格闘しつづけることとなります。社会的にも経



ARICA「しあわせな日々」横浜公演の舞台より(2014年2月)

済的にも困難なことは多々ありましたが、それでも演劇をやめなかったのは、今だにわたしの中で宝石が輝きつづけているからです。

公演のため欧米諸国によく行きますが、演劇に対する視点が日本とはまるで違うことに驚かされます。長い伝統の中で培われてきたのでしょうか、国からの手厚い保護、劇場の運営完備、市

民の観劇習慣など、演劇が芸術として認められているのを実感します。

明治政府は心身鍛錬として体育を必需とし、戦後もそれを踏襲、文学、美術、音楽などと共に普通教育の課目としました。しかし演劇がここに含まれなかったことは、日本でのその後の演劇の在り方に影を落としたのかも知れません。

この春から二年間だけ、ある大学の大学院で実践授業をすることになりました。演劇専門ではなく、文系理系すべての学生が対象です。最高学

府の頭脳が、「身体の知覚」を必要としているようです。日本でも少しずつではありますが、演劇に対しての見方が変わってきているようで、うれしく思います。

このことを報告したかった両親はもうこの世を去りました。そして敬愛していた同窓の飯田順子(旧姓・大林)さんも。ありがたいことに彼女は初舞台からずっと見守り続けてくれた数少ないわたしの理解者でした。最後になりましたが、心よりご冥福をお祈りいたします。

生きて死ぬということ

古井 秀彦
(昭和49年卒)



日は医師、看護師、ケアマネージャー、ヘルパー、行政の保健担当者、各種介護業者等あわせて約50人が集まりました。8人程度が一つのチームとなりテーブルを囲んでロールプレイを行うというスタイルです。

つい先日、終末期医療の勉強会に出席したときの話です。遠からずわが国には「多死社会」が訪れますが、これを支えてゆくには地域ごとに多職種が協力し合える体制づくりが必要になります。この

今回の事例は肺がん末期の79歳男性。長年漁師をしていた頑固なおじいさんです。病状は進行しており排泄を含めベッド上の生活。痛みはないが衰弱のためか苛立ちがつのり、介護者である妻とケンカが絶えない。夫婦ともだいぶ煮詰まっ

た心理状態になっているので、娘、妻の妹、かかりつけ医、訪問看護師、ケアマネージャーなどが患者宅に集まり、患者本人と妻を中心にケア会議を開くという設定です。私はチームで最年長ということで、患者役を演じました。今後のこと（余命1ヶ月という設定）を相談していると、ロールプレイとはいえ自分のために皆が集まって知恵を出し合ってくれていることに対し、感謝の気持ちがリアルに湧いてきます。それなのに私が演じる患者は、訪問入浴サービスが始まれば風呂上がり、のびるを要求するし、訪問看護の開始が決まれば「美人の看護師さんがええのう」と、わがままの言い放題です。

こんな具合なので私たちのテールからはときどき笑い声が上がりますが、笑いの後には行き詰っていた懸案事項が解決するなど、不思議な展開がありました。また、無理難題はともかくとして、旅立つ人が見送る人にちよつとしたことをたのむというのは、見送る人の心を満たすものだということがわかりました。

学年は忘れましたが、岐阜高校の現国の授業で宮沢賢治の「永訣の朝」を読んだ記憶があります。賢治は死にゆく妹の（あめゆじゆとてちてけんじや）という頼みに応じ、青い蓴菜しゅんさいの模様のついた陶碗わんを手に、「まがつたてつばうだまのやうに」暗いみぞれのなかに飛びだします。



香港貿易發展局古田茂美日本首席代表退任送別会で九州香港協会の石原進会長と(2016年3月30日、福岡日航ホテル)

そして「ああとし子 死ぬといふいまごろになつて わたくしをいつしやうあかるくするために こんなさつぱりした雪のひとわんを おまへはわたくしにたのんだのだ ありがたうわたくしのけなげないもうとよ」と続けます。

「夜と霧」の著者でアウシュヴィッツに収容された経験を持つ精神科医ヴィクトール・フランクルは「態度価値」を重要視しています。収容所では創造や体験に価値を見出すことは困難になっていいますが、運命を受けとめる「態度」を決定する自由が人間には残されているというわけです。このことは人生の最終段階を

迎える際にも重要になりそうです。

私たちの学年は岐阜高校を卒業して43年経ちました。これから大きな仕事をする人もいれば、人生のピークは過ぎたという気分の人もいます。しかし「態度価値」に目を向ければ、自分の人生はまだまだ素晴らしいものに出来るというポジティブな気持ちになれるのではないのでしょうか。それでは、最近好きになった言葉を紹介して筆をおきます。

しるべし、自己に無量の法あるなかに、生あり死あるなり。しづかに思量すべし。

道元

岐阜とのつながりを

広げて

古田 茂美
(昭和49年卒)

社会人になってから香港業務を一通貫してきた間、香港から主に日本全体を相手にしてきたので、特に岐阜県だけとの関わりはあまり無かったのですが、1995年以降香港貿易發展局大阪事務所長を務めた折、梅田第三ビルにある事務所の上階に岐阜県大阪事務所が引っ越して来られ、船坂所長と知り合いになった頃、言われるがまま大阪の岐阜県人会に入会しました。

以降、何かと岐阜県事業で呼ばれるよ

うになり、太閤園でよく梶原元知事や岐阜県官僚とお会いしたところです。岐阜県産業センターの砂田元部長とは岐阜県鑄物産業で、岐阜県中小企業中央会辻元会長らとは大垣ソフトウェア関連IT産業で、集中的に岐阜県産業国際化事業に参画しました。

05年東京勤務以降の岐阜県との繋がりで特筆すべきは、岐阜同期横幕君との関係からだと言いますが、その関係で来局された瑞浪陶器組合河口一理事長とその後数年に亘り岐阜県陶器産業の対香港輸出に尽力しました。古田知事上京時も何度も会合に参加して、岐阜県人の自覚を高めたところです。

クールG49にも呼ばれるようになり、遠藤君や水谷君ほか同期に会えて少しずつ故郷の匂いが戻ってきたかなという感じ。平工君とはデザイン産業で香港日本コラボ事業を実施、同期が国家プロジェクトで再会した感じでしたね。その頃帝国ホテルで日比野君に25年ぶりにお会いした際、連れて来られた部下の方に向かって「お久しぶりです」と言いかけて自分の部下に窘められた場面もありました(笑)。彼には香港国際金融フォーラムに参加して頂き、これも同期プロジェクトでした。

香港で社会人としてデビューして以来、岐阜と言っても誰も知らず、岐阜

を説明するのに苦労したのはついこの前までです。今では白川郷、高山、下呂から飛騨牛、枝豆、富有柿、そして「君の名は」。中国人の来日人気ランキングのトップクラスを走るようになりました。岐阜県人として誇りです。二人の子供も日本を離れて独立し、東京に一人でいても寂しいので、今年3月末で香港貿易発展局を退任し、6月から拠点を主人がいる香港と広州市に移し、孫文創立の広州中山大学管理学院孫文ビジネススクールで訪問学者教授として勤務しています。孫文を支援した安川敬一郎創業の安川電

機津田会長を理事長とした北九州大学大学院マネジメント研究科でも特任教授として中華ビジネスを教えていますので、香港、広州、博多小倉を往復する日々を送っています。岐阜新聞の内木イッコとともに、岐高の女子バレーチーム創設者の一人でもあり、身体だけでは自信があるので、このハードな生活にも耐えているのかなど考えています。友人に、今野由梨という80歳で尚且つ美しい女性経営者がいます。彼女を手本に生涯現役いつも若々しく元気でいたいと頑張っております。

多くの出会い 岐阜高校に感謝！

小塩 隆司
(昭和49年卒)



高校時代はサッカー部に所属し、大学の選択は下宿生活に憧れ、京都同志社大学に進学しました。人生の出会いに任せるまま大阪で就職し結婚。一人娘を育て

奈良に自宅を構えたのですが、現在は東京で单身サラリーマン生活を送っています。ホテルニューオータニ大阪に就職し現在に至っていますが、仕事で多くの方と出会う機会に恵まれて、岐阜高校卒業に感謝する事が沢山ありました。中国北京では、日中合弁プロジェクトのホテルニューオータニ長富宮の総支配人として2回の赴任を経験し通算10年間で過ごしました。当時は新日鐵入山幸常務が日本側の代表で、岐阜高校の先輩

と解り楽しく仕事をさせていただきました。

2008年北京オリンピックではJOCジャパンハウスがホテルに開設され星野ジャパン選手団のお世話をするなど、大変名譽な仕事をする事が出来ました。ホテルには空調完備の体育館が有り、柔道、レスリングの選手団がメダル獲得を目指して練習と食事に利用いただきました。

何か特別なおもてなしをと考えていたところ、岐阜高校近くの吉田旗店さんの手描き相撲のぼりを偶然テレビ番組で知り、直ぐに岐阜へ飛び吉田社長に長さ12メートルの「頑張れ日本選手団」の日本



関西同窓会に集まった仲間(2011年10月9日、大阪市)

の古典図柄を染め上げた横断幕をお願いしたところ、吉田社長は快く引き受けて下さり、体育館に掲げた事は忘れる事が出来ません。

北京では、日本人会副会長も務め多くの駐在の方とも知り合いましたが、特にIH1大西立人先輩から君も岐高卒?と質問され、可愛がって頂きました。その後大西先輩から、同級生の古田君が県知事になるぞ!と言われた時は先輩方の活躍に感服した次第です。多くの同窓生も北京を訪ねてくれました。開業医の長屋憲君夫妻、自営の櫻井雅人君夫妻など他にも多くの友人との北京での再会は、高校時代の友人との絆は深いものと再認識しました。

北京オリンピックが終わり、大阪での勤務の後、新潟県のホテルニューオータニ長岡で総支配人として3年間務めました。

長岡近郊には貝印さんの拠点が在り、同級生の水谷健君、辻宏介君も訪ねてくれて、家事用品一式の提供は助かりました。遠藤宏治君とも関カントリーでの同窓生ゴルフにお誘いいただきなど、岐阜高校時代の仲間とは、岐阜を離れても益々盛んとなり自身の素晴らしい財産になっております。

岐阜高校との 微妙な関係

日比野隆司
(昭和49年卒)



きたのも、岐阜高校で校歌どおり「明け暮れ学んだ」？お蔭だ。

近況報告に移ると、「空白の3年間」を過ごした岐阜高校であったにも拘らず、岐阜高校OBを意識する機会が50代に入ってから急増した。50代に入ると人生の振り返りの機会が増加するよう、同窓会的な集まりが俄かに増えるのは一般的な傾向だと思う。

私は、オグリキャップで有名な町営競馬の町、羽島郡笠松町の小中学校を卒業し、その後、名鉄竹鼻線と市電を乗り継ぎ岐阜高校に通学した。東大では一応法律を勉強したことになるが、どうも性に合わず、競馬の町で育ったせいかわり、証券会社で勝負を賭けることにした。

高校時代の思い出は、赤尾の豆単・親単、山貞の「新々英文解釈研究」、「山の家」での豪雨の記憶くらいで、情けないことに青春賛歌的なものは殆ど無く…(暗い！)。

ただ、振り返ればそんな高校生活も、笠松競馬の田舎町から東京へ、そして世界へと足を延ばす上で重要な通過点だった。時を経て、海外駐在を通じ日本の素晴らしさを、そして、東京から故郷岐阜の素晴らしさを改めて認識することができた。

東京でも、10人程度のごく小規模な同級生の集まりから、在京岐阜高校卒業生全体の集まりまで各種同窓会が開催され、時折参加しては、高校時代接点の無かった方とも楽しい時間を過ごさせていただいている。

また、仕事柄、企業トップと接する機会が多いのだが、岐阜高校OBが随所で活躍しておられ、J R東海の柘植康英さん(47年卒)、K A Iグループの遠藤宏治さん(49年卒)、東邦ガスの富成義郎さん(49年卒)、みずほ銀行の林信秀さん(50年卒)、十六銀行の村瀬幸雄さん(50年卒)といった方々とは、結構な頻度でお会いする。

東海経済圏では特に際立っているが、岐阜高校卒業生の経済界でのプレゼンス

は大きく、岐阜高校OBということでも仕事上も何かと助けられてきた。岐阜高校に感謝！

さて、直近の話になるが、2011年から6年間務めた社長職を後進に譲り、この4月から会長に就いた。金融・証券市場にはリーマンショックの余韻も残る中、東日本大震災直後の就任となり、メ

同学年夫婦です

服部 俊治
(昭和49年卒)

高校卒業以来同窓会にはほとんど縁がなかったのが、10年前の同窓会が幹事年だったため、そのころから東京同窓会にも顔を出すようになりました。

高校時代の思い出は、下宿仲間との

ディアなどから「嵐の中の船出」と心配されたが、アベノミクスにも助けられ概ね職務を全うできたと思っている。今後、証券市場を通じた豊かな国民生活の実現、日本の成長戦略への貢献に向けた取り組みを継続するつもりだ。もちろん、我らが岐阜高校の大先輩、古田肇理事が率いる故郷岐阜への貢献を念頭に…。

日々と水泳部がほとんどで、クラスや勉強のことがほとんど記憶にありません。結局自分にとつて、あの高校時代はなかったんだろう。

大学はそんなこんなで、静岡大に行きました。理学部ということでは希望通りだったこともあり、また同級生と先生にも恵まれて、心入れ替えて割と真面目に勉強、研究、クラブ活動しました(したつもり)。

高校時代の付き合いはやはり下宿、水泳部関係に限られていました。30歳目前にしてやっと大学院出て大学に就職しましたがその前に、大学院生の時に、岐阜水泳部同学年だった坂口三恵子さんと結婚しました。

かなり自分に采配の許された環境で



今日乗馬した馬です。馬装後の写真
(2017年2月、乗馬クラブ・町田乗馬センター)

あった理学部から来た人間にとって、医学部の大学院はなかなか辛い日々でした。これまでは教授の示唆があったとしても、その中で自由に研究してたのが、教授の監視はきついし、教官同士も決して友好的でない。能天気な助教の先生のテーマを選んだのも、かなりまずかったです。三恵子のおかげでした。「学生結婚はゆるさん」と言っていた父親も、三恵子のお父さんが「まあ、いいんじゃない」みたいなことで、なんとなく軟化。

彼女は、万事何事も、なんとかなるんじゃないっていう人生スタイルで、私の愚痴もきいてもらい、なんとか大学院時代を乗り切って博士をもらいました。彼女自身は、「私は人生もつと真剣に考えてるわよ」って言いそうですが。

まあ人並みに、子供も二人社会人になりました。とりあえず生物学的な役割は果たした感じです。残りの時間やりたいことをやる(もつとやる)。しかも一人じゃ

なくて二人の方が、いろいろと言いつもいらんし楽だよなってことで、いろいろ楽しんでます。

私が20年前から始めた合唱は、私が三恵子を誘って7年くらい前から一緒に合唱団(それも2箇所)で歌ってます。今年も読響と一緒に『ベルシヤザールの饗宴』という曲を歌えたのが楽しかったです。逆に、水泳はすでに水泳指導員をやっていた三恵子に誘ってもらい、2、3年前から再開して、一緒に毎週土曜日の朝練習します。今年はシंगाポールマスターズと一緒に参加して、水泳の国際交流もありました。さらに昨年からは、乗馬も始めました。三恵子の体験乗馬にくっついて行ったのですが、私が馬の可愛さにやられちゃって、一緒に入会しました。馬の鼻ずらの柔らかさが、たまりません。二人でいろんなことができ、岐阜高校に行ったおかげで人生楽しくなつたかな。

高校生活の

思い出が無い。

西村 直也
(昭和59年卒)

ほとんど同窓会にも顔を出していません。一昨年は50歳の記念の年だから、との気の迷いで、久しぶりに懐かしい岐

阜へと出かけた。そんな不真面目な卒業生の私になぜ?事務局からの同窓会報に寄せる文章の依頼に、疑問は深まるば



2015年の豊田マラソン

かりだった。

覚えている事といえば、朝、通学途中、まだ賑やかだった頃の柳ヶ瀬の、盛り場特有の残り香と、いつも数学の追試を受けていた、午後の静かな教室に流れるそよ風と陽の光くらいである。

進路の希望も無かった。行ける大学に行き、それなりに就職できれば良いと思っていた。そもそも毎回のテストで赤点の自分は、進路を選び好みできる立派な成績には程遠かった。

実は、子供の頃の、あの熱狂的な「ズーパーカーブーム」以前から車が大好きだった。中学生の頃には真剣に車のデザインになりたかった。某自動車メーカーのデザイン部に直接手紙を出し、進路の相談もした。

しかし、高校生になり、将来の進路が少し現実味を帯びてくると、自動車会社など、いわゆる「大企業」のデザイナーの職に就くのは容易で無い事も分かり、

それからは口にする事も無くなった。

そんな3年生の9月、進路相談も真剣味を増してきた頃、ふと、カーデザイナーになりたい、という想いが頭をもたげてきた。自動車のデザイナーになるには、美大か工学部のデザイン学科で学ぶ必要があるが、普通の文系生志望だった人間が、いきなり美大進学を目指すというのは、今考えてもかなり無理がある。もう秋である。基礎的なデッサンや色彩構成などやったことのない人間が、美大合格を目指すのは、運動習慣の全く無い者が、いきなりフルマラソン完走を目指すようなものだったと思う。

担任の大野先生も、大変困っておられたが、当時美術の講師をされていた先生に相談して下さり、市電の忠節駅の傍にあった先生の塾に、放課後ほぼ毎日通わせて頂くことになった。

それからは、来る日も来る日も、受験用のデッサン練習と色彩構成に明け暮れた。目標のある勉強は楽しく、時間を忘れて明け方まで没頭した。

それから、あつと言う間に30年以上が経過した。人と運に恵まれ、念願の自動車メーカーに入社でき、多くの車のデザインに携わせてもらった。勤務は本社のある豊田市だったが、面白いところでは、商品企画の仕事で、表参道のサテライトオフィスの立ち上げも経験した。

昨年春には、人事異動で、デザイナーの採用、新人デザイナー導入教育の担当となった。仕事柄、新人社員との付き合いも多く、当時の自分の姿に思いを馳せることも少なくない。モノを直接造る仕事からは離れたが、未来のモノを造る「人財」を創る、という仕事には大きな魅力と可能性を感じている。

今年、ちょうど自分の息子も高校を卒業する。彼もこれから大学で学び、何かを創り上げていく仕事に就いてほしいと思っている。

自分も、9年後には、いわゆる「定年」を迎える。それまでに、今度は早めに、その後も何かを創り上げていく種をまいておきたいと考えている。

さて、何を創ろうか。今からワクワクしている。

優子さんによせて。

高橋 浩子
旧姓(岩井)
(昭和59年卒)



去る平成28年6月14日に平成59年卒の平野(森木)優子さんがなくなられました。

本当に残念で寂しい想いでいっぱいです。優子さんは自らの運命と向き合っ、しっかりと生きておられました。

優子さんとは高校に入って同じクラスになったことが出会いです。すごく背

が高いし、かっこいいなあという第一印象でした。彼女との一番の思い出は高校2年生のときの球技大会でした。バレーボールだったので、私がミスをしたときも、「ドンマイ！」と励ましてくれて、自分は率先して、長身を生かした強烈なスパイクを決めて点をとってくれました。

その後、前回の同窓会学年幹事の時に行われた学年同窓会で久しぶりに再会しました。彼女と私はまだ小さな子供を持つていたこともあり、仲良くなっているいろいろお話するようになりました。

3年前に、彼女の病気が発覚した時は、私が医師である事もあって、当初から関わらせてもらいました。病気とその状態、

予後が知らされてからも、優子さんは生きるための努力を惜しまず、逃げることなく、するべきことをしっかりと見据えておられました。最初はどうなるかと思いましたが、治療の効果がありとても良くなった時は本当に嬉しかったです。

でも、そんな時間も長くはなく、また病氣と闘うことになっても、いつも笑顔を忘れず生活しておられました。病状が思わしくなく、自宅で過ごす事が困難になって、昨年6月、病院に緊急入院されました。そんな時に、優子さんの恩師である岩田先生自筆の絵をお見舞いとして渡してほしいという依頼を受けました。

ご縁とでもいうのでしょうか、ちょうど前回の岐阜高校同窓会の時に、絵を託された友人から別の友人を通して私にその話が届きました。本当に紙一重のタイミングでした。友人たちと翌日に届けに行こうと相談していましたが、旦那様からのお返事メールを拝見し、どうも病状ががんばしくない印象を受け、特に夜間にづらい思いをされていると聞いて、本来なら遠慮するところであつたのですが、少しでも夜を楽に過ごしてくれたら、とそれだけを思い、夜中に車を走らせ、病院まで届けに行きました。お会いするとはできませんでしたが、みんなの思いを届けることができ、本当に良かったです。

その後、ご家族に看取られ、静かに息を引き取られました。

優子さんは病が非常に厳しい状態であること知り、自分の予後を見据えなくてはならない状態に至りながらも、残された方が困る事が少しでも少なくなるよう、本当にいろいろな心配りをされていてました。やはり、残さねばならないお子様方の事を最期まで最も気遣っておられ、お子様一人ひとりのお誕生日に成人されるまでの間、お手紙を書いておかれたこと事です。

お子様方のすこやかなご成長を、私をはじめ友人みなで、温かく見守って行きたいと思えます。

ご冥福をお祈りいたします。



国家の為に明け暮れ学ぶ

三輪 知生
(昭和59年生)



私はいま、国（経済産業省中小企業庁）が全国に設置する経営相談所『よろず支援拠点』で、岐阜県の代表職（チーフコーディネーター）に就いています。従来の公的支援機関（商工会／会議所や県産業振興センターなど）は、公的支援制度のサービスパロバイダーとしての役割を担い、その普及および活用促進に務めています。一方で『よろず支援拠点』は、中小企業に寄り添いその経営課題を直視し、経営者と共に課題解決に立ち向かうことを役割期待として担う、公設のコンサルティングファームであることが社会的な使命です。47都道府県に平成26年度より設置されており、経営課題のソリューションプロバイダーとしての機能を果たしています。

岐高生三代目である私は教職員を祖父

母に持ち、親戚に病院経営者や新聞社幹部（当時）がおり、果たすべき社会的使命について高校時代よく考えていました。同窓生の皆さまにとって、岐阜高校の校歌にある「百折不撓つとめて止まず」が岐高生であることを代表する信条として、心に刻まれていることと思います。かたや私にとつて最も深く心に刻まれているのは「国家の為に明け暮れ学ぶ」なのです。2年次は男子クラスで望月俊実先生に、そして3年次は岩田孝志先生に、とても厳しく多くのことを教えて戴きました。「国家のために」怠惰になつてはならないと、厳しく「明け暮れ学ぶ」姿勢を身につけることができた事こそが、自己を規定する上での最も重要な学びでした。

幼少期に香港で育つたことから途上国経済の発展に興味を持ち、大学では開発経済学を専攻。また、仕事でも海外と接点を持ちたいとの想いで米国に交換留学しました。そしてパブルの絶頂期に工作機械メーカーに入社し、東南アジアを担当したほか国内営業で大手自動車メーカーグループ担当にも従事しました。そうした経験を買われて商社に転職し、即

戦力として海外勤務に出たのが一九九六年。念願叶つて途上国の経済発展に寄与する実感を噛み締めていた処、日本企業の海外展開が進む一方、空洞化する日本の産業構造に直面したのでした。私の関心事が「途上国経済の発展」から「日本の空洞化への対処」に転換したのは、マニラに赴任していた二〇〇二年頃のことです。

日本に帰任後、マネジメントに関わ

半世紀を生きて



高校卒業後医学部に進学し医師として仕事し始めて25年を過ぎた。生まれてからは半世紀余りである。

この間色々あって思いがけず縁もゆかりもなかったはずの茨城県で生活することになり、細々と仕事を続け中学生と高校生の母親をやっている。仕事と育児の

り後輩人材も育ち仕事に一区切りついたちようどその頃、経済産業省のシンクタンクが経営コンサルタントの養成塾を開講していることを知りました。この塾との出会いが「日本の空洞化への対処」に舵を切るターニングポイント。人生の分岐点となり、民間人として国の予算事業に関わる私が、今ここにいます。そして、これからも「国家の為に明け暮れ学ぶ」所存です。

大西 晶子
旧姓（新居）
(昭和59年生)

両立は思い出すのも嫌になるほどしんどくて、二度と好きな読書もできないのではないかと思つたこともあったが、ここ数年は子どもにも見切りをつけられたようで、うるさいほどまとわりついてきていたのがパツタリなくなり、あつけにとられたようなほつとしたような淋しいような気持ちになつた。同時に、いやでも人生の折り返し地点を越えたことに気がかざるを得なかった。私の人生つてなんだったろう、自分は昔思い描いたようなものにはなれなかった、これからどう生きたらいいのだろうか…など。

高校時代の知人とは、かろうじて年賀状や同業のよしみなどで繋がっている



変わる 「Asia ex Japan」の意味

長谷川 建一
(昭和59年卒)

世界3大金融市場のひとつである香港では、金融関連の会議やフォーラムが多数開催される。金融は不動産と並んで香港の基幹産業であり、世界各国から香港に進出した金融機関が主催する会議などには、世界中の国や地域から参加者が集う。そして、そこで取り交わされる情報の多様さや豊富さは、目を見張るものが

だけで記憶もあいまいだったのだが、近年のITの発達には遠くに住む者にも恩恵をもたらす、SNSのつながりで当時の同級生の方々と連絡がついた。卒業後のあれこれを知るきっかけにもなり、ネット上で日々言葉を交わすことでずいぶん気持ちが変わった。当時自分が知らなかったことを今頃になって知り、ふともう一度高校時代に戻ってやり直したいような気持ちになったりもした。無論それはできない相談なのだが、ちょうど当時の自分と同じ年頃になったわが子たちを見ると、自分の心の中に眠っていた青春に対する愛惜の念のようなものが頭をもたげてくるのを抑えられなかったし、当時の親の気持ちもわかるような気がした。どこかに書いてあったが、まさに50才代は

老年期の青春なのである。

人間はどんなに恵まれているように見えても何かしら満たされない。まあ、こんなもんだらう、といくらか割り切れた気がしてきた。少子高齢化の時代なので、もしかしたら死ぬまで働き続けることになるのかもしれないが、下り坂もまた人生である。上る時は必死で前しか見えなかったが、下り坂ではそんなに力むこともない。あとは周りの景色も楽しみに渡しながら、ゆるゆると降っていききたいものである。

そして同じ時代を生きた方々と、折に触れてお話しする機会を時々持てれば幸いと思う。

ある。

また、そこで得られたネットワークは、自分たちの業務にもプラスをもたらす。世界各国の経済情勢や運用戦略、新しい金融商品など、筆者も一金融人として、自らの情報をアップデートすることの大切さと、香港で取得できる情報の有難さを日々感じ、その恩恵に預かる一人である。さて、そうした会議に参加して、最近気づかされることがある。20年ほど前までは、アジアを論じる時に「Asia ex Japan」という表現がよく使われていた。これは、日本が経済規模で見ても、市場規模で見ても大きいため、また、先進国経済であるのに質的にもアジア諸国とは異なることから、「いい意味」で、日本をアジアとは一緒に論じず、日本をアジアから区別して見ていたのである。

ところが、最近では、同じ「Asia ex Japan」という表現を使っても、例えば、「成長率では日本はアジア諸国とは異なっており成長であるが故に、アジアを論じる時には、日本を除外します」といった、日本にとってはあまり「良くない意味」で使われる感がある。

日本人は、「日本は、政治的にはたいしたことがないが、経済的には世界に認められている」という自負が強いように思う。もちろん、それは間違いとは言えない。しかし、この状態が続けば、近い

将来、日本は「過去の国」のような見方をされ、置いてきぼりを食らってしまうのではないかと危惧せざるを得ない。香港に集う金融のプロたちから日本への関心が薄れつつあることは、ひとつの警鐘ではないかとさえ感じる。

企業ベースでも、高い成長率を実現する中で、中国やアジアでは、多くの新興企業が台頭し成功を収めつつあり、巨大な企業価値を持つ例も出てきている。多くの日本企業は米国市場での競争に勝ち抜くことを力に変えてきたことも事実だが、米国中心の世界観や市場観に偏り過ぎることは、今後の競争状況を間違えようという点に繋がりはしないかと、トランプ新米大統領が誕生した二〇一七年の念頭に思う次第である。



グローバルな時代の 岐阜高校へ

薫田 健太郎
(平成6年卒)



ビジネススクールのクラスメートと

サウデイは、岐阜の日本酒が滲みついた体には厳しい禁酒国でしたが、仕事は非常に刺激的で、充実した4年間を家族と共に過ごしました。

このような23年を振り返って感じていることは、母校や郷里のありがたさです。世界広しといえども、「清流」「城」「歴史ある高等学校」という組み合わせが現存する街は、本当に珍しいと思います。また、質の高い授業から得た知識や考え方、校訓の百折不撓の精神は、本当にありがたい学びだったと感謝しています。

岐阜高校を卒業して23年。岐阜以外の地で過ごした歲月の方が長くなりました。総合商社で職を得てからは海外に行く機会が劇的に増え、大学時代にバックパッカーとして足を運んだ国と併せると、70を超える国を訪れる機会に恵まれました。海外駐在も、シリアとサウデイアラビアで計6年を過ごしました。シリアはキリスト教の遺産、イスラムの文化、正則アラビア語(フスハー)を大切に守り続ける美しい国ですが、昨今の内戦の惨状を聞く度に、心が痛みます。

さて、国内外の情勢を概観しますと、反グローバルイズムや保護主義が台頭しています。私個人としては、職業柄という面もあるのでしょうが、世界経済が一体化の方向に向かう流れは不可逆と思っています。従って、日本も、あるいは中部地方も、必要な政策でダメージコントロールをしながら、この大きな流れをチャンスとして活かすしかないと思っています。一方で、反グローバルイズム派の主張に首肯できる部分があるとすれば、それは「格差」です。特に個人的には、教育の格差は、社会の分断を招きかねない危険性を内包していると思います。

不思議なご縁

河田 淳
(平成6年卒)

岐高に入学して最初に味わったのが、勉強に全くついていけないという大きな挫折。1年生の1学期には上位1/3だった

そのような中で母校には、性別や境遇に関わらず、学を以って身を立てようとする志ある生徒を応援する公立校の旗手であり続けて欲しい、と心から願っています。学生が多額の借金を背負って高等教育を受けたり、親の収入で受けられる

教育を受けたら、親の収入で受けられる

教育の質が決まってしまうような社会であってはならないという事は、昨年、彼の国の選挙の様子を見ていて、改めて思いました。

これからも岐阜高校を応援しています。頑張ってください！



テネシー州ナッシュビルにて(2016年7月)

た順位も、卒業する頃には450人中400番と見るも無残な成績となっていた。全国模試トップのクラスメートがすらすらと黒板に数式を書き込むのを眺めながら、異次元の能力差を感じたのは、後にも先にも岐高の3年間が一番多かった様に思う。

その後迎えた大学受験では同期生が次々と難関大学に合格して行く中、志望校に受かるはずも無く、浪人して第3志望に受かるのが精一杯。ただ殆ど勉強しなかった私が、国立大学に合格できたのは「腐っても鯛」をもじった「腐っても岐高」のお陰と思う。大学進学後も第3志望だった事が尾を引き、友人とパチンコと麻雀に明け暮れ、成績も最下位で進級して行くだけの、今思えば目標のない日々を送っていた。

その中で転機が訪れたのは大学3年生

の5月、大学進学直後から付き合っていた彼女から、「目標も無くダラダラ過ごしている貴方には魅力が無いので別れて欲しい。6月からニューヨークに留学する」と一方的に別れを告げられた。いつでも傍に居ると思っていた人が急に居なくなつた事で、私の中で初めてやる気スィッチが入つた。彼女が留学して1か月、生まれて初めての飛行機で彼女を追いかけた。2回乗り換えの格安航空で、NYのJFK空港に着いたのは21時過ぎ、タクシーと電車で彼女の寮に到着した時には既に24時を廻っていた。1日半以上かけてたどり着いた彼女の部屋から出てきたのは190センチ以上のアメリカ人いきなり「Who are you?」、私も気持ちには負けなと「Who are you?」の応酬。後ろから彼女が「だから来るなって言っただでしょ!」と冷たい一言。30分間の押し問答の後、ドアはピシャリと閉まり、初海外で深夜に放り出されるといふ最悪の結果だつた。寮の入り口で途方に暮れていると、この騒動を見ていた同じ年の台湾の女性が、初対面の私を部屋に泊めてあげるとのお誘い、断る理由も無くその日から帰国するまでの2週間、ニューヨーク観光をしながら楽しく過ごす事になる。地獄に仏とはまさにこの事、今でも信じられないが、こんな不思議な縁も有るものだ。



その後海外の魅力にはまった私は、大学4年を休学しサンフランシスコへ1年間留学、そこで出会った日本人の女性が今の妻である。留学後商社に就職した私は、海外部門に配属され、現在は印刷会社の海外責任者として、日本と海外を行き来する毎日を通している。

高校、大学、社会人と交際範囲が岐阜〜海外へ広がるにつれて、グローバルに各界で活躍しておられる岐高の先輩にお会いし、一緒に仕事をする機会も多くなつた。そうした際に、私が岐高の卒業生である事が伝わると、先輩は笑顔になり「先輩、応援してやるから頑張れよ」と温かい言葉をかけて下さる。岐高の卒業生で有る事を誇りに思い、ご縁を感じる瞬間だ。最近思う「縁」の一つに、同窓会や様々な会への出席がある。昔は面倒だからと不参加も多かったが、「縁」を意識するようになってからは、都合の付く限り参加させてもらっている。これからは色んな縁に感謝し、出会いを大事にしていきたい。

都会の中で

松野 大輔
(平成6年卒)



休日の昼下がり、自宅にて子供と(2017年2月)

「東京は、天皇陛下から物乞いまで、いろんな人が暮らしていると。大学進学のための上京前夜、祖父の話聞いて、少し気が引き締まる思いがしました。初めて新宿を歩いた日、車道にまで人が溢れていました。日曜は毎週歩行者天国になることも知らず、「今日はお祭りなんだ」とひとり勘違いし、級友にそれを話すとひどく笑われてしまいました。そんな私が、大学時代には、両親のおかげで、何度か海外を旅させてもらいました。一九九五年晩夏、北京。少し学ん

ただけなのに中国語の腕試しにと。当時は、本格的な経済成長もこれからというときで、表通りこそ華やかでしたが、脇道を見れば、何十年も前にタイムスリップしたかのような街並みが広がっていました。

改革開放の進む北京にもいよいよマクドナルドがオープンしたと話題で、紫禁城の南にできたその店を訪れました。バーガーの値段は日本と同じくらい。ラーメン1杯10元もあれば食べられたのですから、かなりの高級食堂。しかし、店はたいそうな混雑で、私は注文を待つ列に並びました。

その時、幼い兄弟(私にはそう見えた)二人が入ってきました。兄貴の手にはかなりくたびれたお札と硬貨が握りしめられて。勢いよくいわゆる「横入り」をして、列の先頭に躍り出るや、兄貴は、弟の好みを聞いて、大きな声でバーガーを注文。お金を差し出したところ、なんと、店員は注文を断ってしまいました。どうやらそのお金は通用しないものであったようです。受け取りを拒否されてしまったのでした。今になって思い返してみれば、この時の体験が、後の就職動機の一つのきつ

かけとなりました。

子供3人に恵まれ、今は、国のエネルギー行政に身を置かせてもらっています。岐阜の街もろくに知らぬまま、穂積の田舎から、大都会東京に出てきて、はや20年。岐阜校歌を頭の片隅に、たまには「ミズクラットメテヤマズ」を思い出

しつつ、子供たちのためにとがんばってやっています。

穂積暮らしより東京暮らしが長くなりましたが、今でも我が家の味噌汁には、地元から取り寄せた赤味噌と決めています。他の味噌では飲んだ気がしないのです。

マイナスからのスタート

竹中友紀子
(平成6年卒)



高校時代、まさか自分がこのような道に進むことになるとは想像もしていませんでした。

父が高校受験を対象とした学習塾を経営し、そこで講師をしていたため、中学時代は四六時中勉強を教えてもらえるという恵まれた環境で受験勉強に取り組んでいました。また当時は勉強において

自分の中でもある程度の自信がありました。

岐阜高校入学後もしばらくはその自信にしがみつき高校生活を送っていたのですが、あるとき「上には上がいる」という事実を受け入れざるを得なくなり、人生で初の挫折を経験。2年に進学する春休みに「勉強についていけない」と父に泣きついたのを覚えています。負けず嫌いの私が父に泣き言を言ったのは後にも先にもその一度。その後は授業についていくために睡眠時間を削りながらとにかく必死に勉強しました。今考えると、あの挫折が私を今の道に進ませた要因の一つとなっているような気がします。

現在私はモデル・女優として活動しております。大学3年の時に名古屋のモデル事務所に所属しました。160センチ

チ：モデルとしては身長が低く、所属当時マネージャーから「マイナスからのスタートだよ」と言われました。ファッションの仕事はできないかもしれない。でも他に私が必要とされる場所があるはず！表現力を磨き、テレビCM等映像の仕事をしただけになりました。ビューティーの仕事（雑誌のメイクページや化粧品会社の広告等の仕事）なら身長は関係ない！人一倍肌のケアに気を遣い、表情の作り方を研究しました。その結果、年契で化粧品会社の仕事が決まり、それ



をきっかけにビューティーの仕事が増えました。その後30歳の時に活動拠点を東京へ。年間12社と契約し、CM契約社数タレントランキングで3位になるなどCMモデルとして多数のテレビCMに出演させていただきました。雑誌では光文社「美ST」のレギュラーを始め、集英社「ecchi」、マガジンハウス「クロワッサン」等でビューティーモデルとしても多くの仕事をさせていただいております。また上京後に本格的に芝居を学び始め、最近映画やドラマ、舞台等の仕事も増えてまいりました。昨年は予てからの夢であったNHKドラマにも出演。「マイナスからのスタート」だった私がこの仕事を20年続けて来られたのは、元々の負けず嫌いな性格に加え、悔しい思いをしつつ必死に勉強に取り組んだ高校3年間があったからこそだと思っております。

高岐高校だより

第126号

平成29年3月8日
岐阜県立岐阜高等学校
PTA 会長 河田 誠
印刷/西崎プリンター
発行/筑間 敏博



▲センター試験直前▶



CONTENTS

●チャンスに巡り会えたとき	学校長 ……p1
●夢を実現させる秘訣	PTA会長 ……p2
●「卒業するみなさんへ」	3年学年委員長 ……p2
●未来へ	3年学年副委員長 ……p2
●平成29年度コース登録の結果	教務部 ……p2
●卒業おめでとう、興味・関心が人生を作る～	進路指導部 ……p3
●入試センター試験自己採点結果	進路指導部 ……p3
●大学入試センター試験	進路指導部 ……p3
●2017年度大学入試出願状況(現役生のみ)	進路指導部 ……p4
●センター試験を終えて後輩に伝えたいこと	進路指導部 ……p5
●卒業を祝して	3年学年主任 ……p6
●3年間の思い出	3年学年会 ……p6
●3カ年皆勤賞・同窓会幹事	3年学年会 ……p6
●第六回「科学の甲子園」全国大会6年連続出場	理科 ……p7
●グローバルリーダー養成事業から珠玉の言葉・声	学校活性化委員会 ……p7
●第2回学校評議委員会について	教務部長 ……p7
●部活動だより	特別活動部 ……p8

チャンスに巡り会えたとき



学校長
南谷清司

三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございませう。いよいよ船出です。岐阜高校で蓄えたパワーで未来へ突き進もうと意欲満々のことと思います。桜の開花とともに始まる、希望に満ち前途洋々たる未来を心から祝福し、応援したいと思っております。

しかし、残念ながら長い人生の間には満ち潮の時も引き潮の時もあります。満ち潮の時には何をやってもうまくいくのですが、引き潮の時はやることなすことうまくいきません。こんなはずではなかったと、辛くて苦しくて心が挫けそうになったりします。誰も分かってくれない人がいなくて一人きりのような気になったりもします。

けれど、引いた潮は何時かまた必ず満ちてきます。だから、引き潮の時には、

目の前の困難や苦しみから逃れようと浅瀬でパチャパチャと暴れるような焦った動きをしてはなりません。自分の不運を嘆いたり不満を言ったりしてはいけません。引き潮の時こそやがて潮が満ちて来ることを信じ、自分を鍛えることが必要なのです。「運命の女神の後ろ髪はむんずと短め、掴んだら絶対に放すな。」と言いますが、胸に力がなければ掴み続けることはできません。運命の女神の髪に触れた正にその瞬間、未来への道を切り開く力を十分に発揮できるように、引き潮の時にこそ自らを鍛えておかなければならないのです。

これからの人生では、校訓「百折不撓・自強不息」が心の拠り所となるはずですが、本校の生活で培った、幾度失敗しても志を曲げない「確固たる志」と、自ら努め励んでやまない「気迫のこもった実行力」が皆さんを支えてくれます。どうぞ、満ち潮の時も引き潮の時も、目標を見据えて、強い決意と希望と勇気を持って着実に歩みを進めてください。そうすれば、夢を引き寄せ、光り輝く未来を手にする時が必ずやってきます。皆さんの未来に幸あれ。

ジョイントセミナー at 東大を終えて

生徒の感想

8月1・2日に行われた「ジョイントセミナー at 東大」は今回で9回目の開催となりました。参加者は2年生の希望者53名でした。

初日は全員で東大の先生である田中氏（工学系研究科）、交野氏（法学政治学）のお二人から講義を拝聴しました。その後、数名ごとに分かれたグループを本校卒業生にキャンパスや研究室などの案内をしてもらいました。夜には宿泊先にて先輩方と語る時間を設け、大学での研究や生活、受験勉強について話してもらいました。

2日目には内閣府の一室をお借りし、本校卒業生である元環境省大臣官房審議官の平岡英治氏から行政に関わる仕事について貴重なお話を伺った後、総務省のオフィス改革の状況を見学をしました。

1泊2日の恨たたい日程でしたが、生徒達は多くの中、迎えて下さった先輩方の温かい思いに触れ、学ぶことや働くことの意義について広い視野で考える大変よい機会となったようでした。



模擬授業



模擬授業



研究室を見学



先輩との懇談会



元環境省大臣官房審議官
平岡氏の講演



国会議事堂前にて撮影

●1日目に東大、2日目に総務省という国の最先端やトップで働く方々の様子を生で見ることで、自分の夢が単なる漠然としたものではなく、現実味、具体性を持ったものへと変わった。曖昧とした目標だったとき以上に様々な事への関心やそれをやろうとするやる気が出てきたという意味で有意義であった。今回得たものではなく、今後につなげていくことと思う。（2年男子）

●at 東大に参加してみて実際に目にした大学生の方にお会いしたりして、「ここにいたい」、「ここで働きたい」と強く思うようになった。実際に働いたり学んだりする自分をイメージできたのでモチベーションが上がりました。最先端の研究室やオフィスは本当にわくわくして、ここでいろいろなお仕事ができる人たちがうらやましいなと思いました。印象的だったのは東大の人は自由だということ。自分がやりたいことを自由に進路にしていけることは羨ましいし、できるなと思います。終わるわくわくが止まらなかった2日間でした。（2年女子）

新年度のコース選択・科目選択に向けて

双葉 研

本校では将来の進路、適性、希望により、2年生から文系、理系いずれかのコースを選び、学習するように教育課程が編成されています。

これまで新年度のコース選択・科目選択に向けて、学年集会での説明や総合的な学習の時間における進路学習を行ってきました。十二月には仮登録を行い、保護者懇談会を経て、一月六日（金）に本登録を行います。

特に新2年生は、今後の進路を考慮するうえで大きな選択になりますので、しっかりと考えて選択してください。

新2年生

■コース選択

文系コースでは、文学部や法学部、経済学部などの文系学部への進学を目指して学習します。国語や社会の授業時間が多いコースです。

理系コースでは、理学部や工学部、医学部などの理系学部への進学を目指して学習します。数学や理科の授業時間が多いコースです。

■地理・歴史の選択
文系コースでは、世界史Bを必修科目とし、日本史Bと地理Bから一科目を選択して履修します。

理系コースでは、世界史B、日本史B、地理Bから一科目を選択して履修します。

■理科の選択
文系コースでは化学基礎と生物を必修科目として履修します。

理系コースでは、化学を必修科目とし、物理と生物から一科目を選択します。

■コース・科目選択の注意
コースや科目は、3年生への進級時に変更できません。進路希望を踏まえて慎重に選ぶようにしてください。

新3年生

■地理・歴史の選択

文系コースでは、2年生で履修している科目を継続して履修します。

理系コースでは、2年生で履修している科目を継続して履修します。それに加えて、世界史Bの履修者は日本史Aと地理Aから一科目を選択して履修し、日本史Bまたは地理Bの履修者は、世界史Aを履修します。

■理科の選択
文系コースでは、生物を継続して履修し、それに加えて、化学基礎と物理基礎から一科目を選択して履修します。

理系コースでは、2年生で選択している科目を継続して履修します。

■その他の選択
文系コースでは、数学B、倫理、政治・経済、音楽II、書道II、美術II、フードデザインから一科目を選択します。ただし、最終科目は、1年生で履修した科目に取ります。



体育系

部名	活動・試合結果など
陸上競技	岐阜県高等学校新人陸上競技対校選手権大会 女子1500m 4位 太田(1年) 女子3000m 4位 太田(1年) 女子4x100m 7位 船井(2年)-押(1年)-渡邊(1年)-川地(2年) 岐阜県高等学校新人陸上大会 男子 12位 女子 7位
サッカー	全道高校サッカー選手権岐阜大会 3回戦 岐阜 11-0 武儀 3回戦 岐阜 0-0 大宮工
バレーボール男子	第88回全日本バレーボール高等学校選手権大会 岐阜県代表決定戦(男子) 1回戦 刈谷 2-1 2回戦 刈谷 0-2
バレーボール女子	第88回全日本バレーボール高等学校選手権大会 岐阜県代表決定戦(女子) 1回戦 刈谷 2-0 2回戦 刈谷 2-0 3回戦 刈谷 0-2 モの岐阜、朝ベスト16
バスケットボール	岐阜県高等学校総合体育大会バスケットボール競技 男子 3回戦 岐阜 81-70 岐阜第一 準々決勝 岐阜 23-29 長良 ベスト8 女子 2回戦 岐阜 44-27 各務原西 3回戦 岐阜 45-75 各務原 岐阜県高等学校選抜バスケットボール大会 男子 2回戦 岐阜 71-54 岐阜西 3回戦 岐阜 30-157 富田 女子 1回戦 岐阜 82-74 郡上
ソフトテニス	岐阜県高等学校新人大会 女子 個人戦 ベスト8 渡邊(2年)-船山(1年)- 岐阜県地区総合体育大会 男子 団体戦 準優勝 岐阜県高等学校新人大会 男子 団体戦 ベスト8 女子 個人戦 ベスト8 渡邊(2年)-船山(1年)-
水泳	岐阜県高等学校新人水泳競技大会 100m背泳ぎ 2位 横山(2年) 200m背泳ぎ 3位 横山(2年) 200m個人メドレー 5位 向山(1年)
ハンドボール	第13回岐阜県高等学校ハンドボール選手権 2部 準優勝 2回戦 岐阜 23-18 郡上 準決勝 岐阜 21-10 岐阜西 決 戦 岐阜 12-31 大宮西 平成28年度岐阜県地区総合体育大会ハンドボール競技 1回戦 岐阜 13-21 岐阜西 平成28年度岐阜県高等学校新人大会岐阜地区予選 岐阜 14-24 津城早稲
卓球	岐阜県高等学校新人卓球大会学校対抗の部 地区予選 男子 5位 県大会出場 女子 11位 県大会出場 岐阜県高等学校新人卓球大会学校対抗の部 男子 2回戦 岐阜 2-3 岐阜西 女子 1回戦 岐阜 2-3 多岐良西
バドミントン	新人大会岐阜地区予選 男子団体 4位 県大会へ出場 女子団体 7位 男子個人 シングルス 小嶋航平 5位 県大会へ出場 新人大会県大会 男子団体 1回戦 岐阜 3-2 大宮西 2回戦 岐阜 0-2 岐阜北 男子個人 シングルス 小嶋航平 出場
柔道	岐阜県下校柔道新人大会全道高等学校柔道選手権岐阜地区予選 男子個人 60kg級 ベスト8 梅本(2年) 優勝(2年) 66kg級 3位 永野(1年) 73kg級 準優勝 梅本(2年)
剣道	第44回岐阜県高等学校剣道大会 男子団体 1回戦 岐阜 0-1 岐阜西 女子団体 1回戦 岐阜 1-4 武儀 第55回岐阜県地区高等学校総合体育大会剣道競技 男子団体 1回戦 岐阜 3-0 郡上 2回戦 岐阜 4-0 本巣北 3回戦 岐阜 0-1 岐阜城北 男子個人 ベスト8 池田(2年) 県大会出場 女子団体 予選リーグ 1勝1敗 第62回岐阜県高等学校剣道新人大会 男子団体 1回戦 岐阜 3-2 富田 2回戦 岐阜 2-2 [本数負け] 富田 女子団体 1回戦 岐阜 0-3 津南東 男子個人 池田(2年) 1回戦敗退
軟式野球	第55回岐阜県地区総合体育大会(軟式野球の部) 優勝 第65回岐阜県高等学校軟式野球秋季(新人)大会 出場
テニス男子	平成28年度岐阜県高等学校テニス新人大会 男子団体戦 1回戦 男子ダブルス 北岡(2年)-永田(2年) 2R 県大会ベスト16
テニス女子	第55回岐阜県地区高等学校総合体育大会 女子団体 準優勝 平成28年度岐阜県高等学校テニス新人大会 女子団体 1回戦 岐阜 4-1 津南東 2回戦 岐阜 0-3 津南大町 ベスト8 女子シングルス 倉内(2年) 初中(2年) 出場 女子ダブルス 倉内-平光(1年) 出場

文化系

部名	活動・試合結果など
音楽	第83回(平成28年度)NHK全国高等学校音楽コンクール岐阜県コンクール 最優秀賞 第56回岐阜県合唱コンクール(第69回全日本合唱コンクール岐阜県大会) 高等学校部門Aグループ 最優秀賞 第88回中部合唱コンクール(第69回全日本合唱コンクール中部支部大会) 高等学校部門Aグループ 最優秀賞 平成28年度岐阜県高等学校総合文化祭合唱部門(中津川文化会館) 最優秀賞
書道	第40回全道高等学校総合文化祭書道大会書道部門 岐阜県代表 菅井 莉(3年) 第25回岐阜県高校生書道展(書の甲子園) 比叡の部 東海地区優秀賞 個人の部 秀作賞 菅井(2年) 入賞 坂(3年) 坂井(3年) 村本(2年) 菅井美(2年) 小森(2年) 野澤(2年) 平成28年度岐阜県高等学校総合文化祭書道展 最優秀賞 村本(2年) 第14回津市美術展 市賞賞 菅井(2年) 教育賞賞 清水(1年) 奨励賞 村本(2年) 野澤(2年) 菅井美(2年) 野澤(2年)
演劇	第64回岐阜県高等学校演劇岐阜地区大会 同結賞 岐阜県高等学校総合文化祭演劇部門 岐阜地区合同公演 奨励賞
茶道	文化祭では3年生が茶席前で、2年生は演茶点前でおもてなし をさせていただきました。
自然科学(生物)	第40回全国総合文化祭 自然科学部門 研究発表「守れ!ふるさとのカスミサンショウウオ科 〜保護活動の推進と生態活動の解明〜」文化連盟賞 第25回岐阜県高等学校総合文化祭 自然科学系部活動研究発表交流会 研究発表「守れ!ふるさとのカスミサンショウウオ科 〜DNAと環境DNAを用いた新規生態地の発見〜」 最優秀賞(第1位) 専攻の全道高等学校総合文化祭への出場が内定 第15回AITサイエンス大会 自然科学部門 優秀賞(第1位) 第47回社会貢献部表彰 平成28年度佐野市田中正造記念賞 大賞
自然科学(物理)	第40回全国総合文化祭 自然科学部門 研究発表「互換に充電できる充電器の発案」文化連盟賞 第25回岐阜県高等学校総合文化祭 自然科学系部活動研究発表交流会 研究発表「クワン管に共振板ができるのはなぜか」 奨励賞
自然科学(化学)	日本化学会第25回東海地区高等学校化学研究発表交流会 奨励賞「金属陽イオンと水ガラスの反応について」 討論賞 石川(2年)、野澤(1年)
ESS・ディベート	第1回岐阜県高等学校英語プレゼンテーション大会 優秀賞 ベストプレゼンター賞 高井(2年)
調理	第7回ゆめん創作グランプリ 入賞 清水・前田(2年)
写真	岐阜県高等学校写真コンテスト 奨励賞 澤部・名取・豊村・清水(2年) 賞状 高田・安藤(1年) 岐阜県高等学校総合文化祭 奨励賞 名取・清水(2年) 露(1年)
吹奏楽	第54回岐阜県吹奏楽コンクール岐阜県大会 管打A編成の部 最優秀賞 第59回中部日本吹奏楽コンクール岐阜県大会 管打A編成の部 最優秀賞 高校A編成の部 最優秀賞

馬・その他

部名	活動・試合結果など
放送	文化祭-体育大会において、実況アナウンスを行いました。 毎日、楽しい「お昼の放送」ができるよう努力・工夫しています。
図書	学園高等学校校ビブリオバトル2016岐阜県大会 優勝・賞状(等)2年) 図書館でカフンク-馬場が図書館じりの作成、書入整理を しています。 12月に図書館講演会(2回)を開催します。
家庭クラブ	第37回全道高校生ホームプロジェクトコンクール 特別賞(女子学長賞) 久保(1年) 優秀賞 梅田(1年) 努力賞 高橋(2年)(1年) 努力賞 中村(1年) 努力賞 藤井(2年)(1年) 努力賞 吉岡(2年)(1年) 1年生の生徒が、点字の種本の紹介カードを20作制作し、学校 へ寄贈いたしました。
英語科	第10回岐阜県高等学校英語スピーチコンテスト 奨励賞 三好(1年)
国語科	平成28年度高校生のための読書力セミナー(討論コンテスト) 最優秀賞 田村・高橋・前田(1年)

科学甲子園 岐阜高初V



第6回科学の甲子園全国大会で総合優勝した岐阜県代表の岐阜高チーム。19日午後、茨城県つくば市。

ロボ製作の実技や筆記、全国の「強豪」撃破

都道府県代表の高校生が学校ごとにチームを組んで科学の知識や技能を競う「第6回科学の甲子園全国大会」が17、19日、茨城県つくば市で開かれ、岐阜県代表の岐阜高校が優勝した。8人編成のチームのキャプテンを務めた2年高島優さん(17)は「夢を見ていたように、仲間を信じてやってきた結果、この優勝に結び付き、感無量です」と悲願の初優勝を仲間と共に喜んだ。

助け合った8人 「夢を見るように」

科学技術振興機構(JST)の主催。代表の47校は、制限時間内に四足歩行のロボットを作って坂のあるコースで速さを競うなど、3種類の実技と、筆記の総合成績を争った。2位は東大寺学園高(奈良県)、3位は海陽中等教育学校(愛知県)、4位は灘高(兵庫県)、5位は栄光学園高(神奈川県)だった。

岐阜高は第1回から出場。第2回以降は毎年10位以内の好成績を収め、初めて頂点をつかんだ。高島さんは「8人がお互いの長所を生かして、弱点を補い合ったチームワークの勝利。先生や先輩のサポートもあって、最高のパフォーマンスを発揮できた」と振り返った。

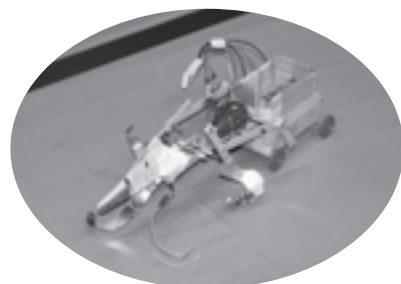
教材や過去問題の提供などで昨年12月から生徒をサポートしてきた天邊雄一教諭(40)は「学校でロボット製作のためにモーターや回路などの部品を約1000セット用意し、本番に備え

2017年3月20日 岐阜新聞掲載

てきた。生徒の優勝を聞いて感無量と喜びを語った。



スワップミート(交流会)の様子



ばんえい競馬 in 筑波 優勝機体



実技競技(化学実験)の様子



2017年度 大学入試結果

大学名	合格者数	大学名	合格者数	大学名	合格者数
旭川医大	1	兵庫県立大	1	愛知医大	8
北海道大	6	酪農学園大	1	愛知学院大	6
東北大	3	岩手医大	1	愛知工業大	2
筑波大	6	東北医薬大	1	愛知淑徳大	3
千葉大	1	国際医療福祉大	1	金城学院大	16
東京海洋大	1	青山学院大	7	椋山女学園大	1
お茶の水女子大	1	学習院大	3	大同大	3
東京大	13	北里大	2	中京大	6
東京外大	7	共立女子大	2	中部大	2
東京学芸大	2	慶応大	21	豊田工大	7
東京工業大	2	国際基督教大	2	名古屋音大	1
一橋大	3	駒澤大	3	名古屋外大	4
横浜国立大	11	芝浦工大	4	名古屋芸大	2
富山大	4	上智大	9	南山大	100
金沢大	7	成蹊大	2	藤田保健衛生大	19
福井大	4	成城大	1	名城大	65
山梨大	1	中央大	31	愛知工科大	2
信州大	3	津田塾大	2	名古屋学芸大	1
岐阜大	46	東海大	4	京都産業大	3
静岡大	4	東京女子大	4	京都橘大	1
浜松医大	1	東京農大	3	京都薬大	3
愛知教育大	1	東京理大	53	同志社大	100
名古屋大	49	東洋大	2	同志社女子大	4
名古屋工大	5	日本大	1	佛教大	1
三重大	5	日本獣医生命大	1	立命館大	105
滋賀大	1	日本女子大	1	龍谷大	4
滋賀医大	1	法政大	16	関西大	9
京都大	26	武蔵野音大	3	関西医大	1
大阪大	19	武蔵野大	1	関西外大	1
神戸大	8	武蔵野美大	1	近畿大	13
奈良女子大	2	明治大	48	関西学院大	12
島根大	1	立教大	9	武庫川女子大	1
広島大	2	早稲田大	53	岡山理大	2
愛媛大	2	麻布大	1	川崎医大	1
九州大	1	神奈川大	1	防衛医科大学校	2
熊本大	2	神奈川工科大	1	気象大学校	1
宮崎大	1	昭和音大	1	国立看護大学校	1
国際教養大	3	マリアンナ医大	1	防衛大学校	1
首都大東京	2	金沢工大	3	岐阜市立女短	2
岐阜薬大	7	諏訪東京理大	1	上智大短大部	1
名古屋市立大	19	朝日大	1	国公立医学部医学科	37
滋賀県立大	1	岐阜女子大	1	<small>※防衛医科大学校・自治医大含む</small>	
京都府立大	1	岐阜聖徳学園大	5		
京都府立医大	1	中部学院大	3		
大阪市立大	1	岐阜医療科学大	1		
大阪府立大	5	愛知大	10		

※過年度卒業生を含む

応援団々歌

- 一、 金華城頭月冴えて
蓋世の英雄信長の
万象すべて沈黙なり
雄凶の跡に苔むしむ
- 二、 嗚呼熱血児信長の
ありし昔を偲びては
覇業は夢と消え果てど
健児無量の想ひあり
- 三、 熱血受けし一千の
桜の香り身に沁みて
心一つの健児等が
根城構えて百三十余年
- 四、 悲壯の風の吹き荒び
校の徽章の桜花
混濁の波逆巻けど
身もて護る健児団
- 五、 熱血なる敵の迫るとも
破邪の剣をぬき立てば
寄せ来る仇は多くとも
竜車に向う螳螂ぞ
- 六、 敵に鬼神の勇あるも
我には紅き血潮あり
仇に天魔の計るるも
カラくれなむを見ずや君
- 七、 さはあれ心せ同胞の
桜の花の散るあらば
香りは永き百三十余年
散るその下に死なん哉
- 八、 誘う嵐に散らされず
朝日に匂ふ桜花
尽くせし心の現はれて
その花の下に我れ立たん

凱旋歌

- 一、 泰山厲と消ゆるとも
誓って桑梓に見えじと
我が身に功なかりせば
出でし華陽の健男児
- 二、 されど見よ見よ今はこれ
姿を変えて悠々と
我が大丈夫は帰り来ぬ
身に大功の光そへ

平成29年度 岐阜高校同窓会総会運営委員会 名簿

運営委員長	S49年	遠藤宏治				
運営副委員長	S49年 S59年 H6年	杉山正裕 松原史尚 木田陽子				
事務局 総務部	S49年 S49年 S59年 H6年	○辻 宏介 ○馬場祐子 ◇松原史尚* ◇小野義孝				
財務部	S49年 S59年 H6年	○坂井 明 ◇塩谷博英 ◇宇野仁司 福田薫生				
情報部	S49年 S59年 H6年	○櫻井雅人 ◇三輪知生 米原 聡 ◇寺本圭志				
監査	S49年 S59年	○三宅雅之 高井淳一				
会報部会	S49年 S59年 H6年	○丹羽 章 ◇館林秀俊 ◇柴田康博	◇酒向和子 名越信成 岡崎晴太	◇内木いづみ 渡辺智和 山田英理	馬場祐子* 山本紀代子	寺本まさみ
広告部会	S49年 S59年 H6年	○水谷 健 荻原信子 日比野隆司 ◇塩谷博英* 柴田朋浩 ◇市橋政浩	◇小林正典 白川康子 寺町吉見* 松本幸治 富成正人	安藤朋子 平工奉文 長屋 憲 橋本幸治 柴田康博*	古田茂美 小川陽一郎 小川良司 河尻香代子 田中 薫	杉山涼子 長谷川好規 富成義郎 高橋浩子
会場部会	S49年 S59年 H6年	○岩崎彌廣 寺町吉見 高井勝由 大下節子 日比野初子 ◇上田義広 関谷典子 鈴木佳代 梅村信之 ◇岡崎晴太* 植松 剛 河田 淳 成瀬知喜 遠山健志	◇瀬古賢二 細江英夫 濱田克彦 奥村裕子 篠田淳子 若園ちとせ 福島伸江 林真奈美 奥村 中 山田英理* 宇野仁司* 柴田康博* 馬淵智幸 塚原光晴	◇柴田明美 山中 章 古井秀彦 尾関美樹子 青木昌久 中島佐和子 高井淳一* 中村恵理 末松弘臣 青木英俊 岡本健太郎 松本聖二 木田陽子*	内木いづみ* 国枝幸徳 足立佳代子 志知文子 水野由岐子 南谷拓也 成瀬幸子 野田一江 中尾 勝 市橋政浩* 小野義孝* 富成正人* 田中 薫*	馬場祐子* 木村敏夫 内田恵子 道家香子 飯尾若志 林 幸代 大場浩子 朝居義裕 伊藤優二 小山田弘樹 豊田雄一郎 都竹弥生
動員部会	S49年 S59年 H6年 在京部	○南谷清司 加藤美稲 ◇関谷典子* 鈴木佳代* ◇富成正人* ○中村 誠 S59年 ◇寺田吉道 H6年 ◇河田 淳*	木村恭子 福島伸江* 林真奈美* 市橋政浩* ◇若宮広和 植松 剛*	岩崎彌廣* 高井淳一* 成瀬知喜*	梅澤敏郎 成瀬幸子*	吉田光恵 大場浩子*

○: 責任者 ◇: 副責任者 *: 兼務

編集後記

5月25日に水谷邦照会長さん、吉田豊先生にお会いをし、原稿に目を通していただきました。今年度も何とか同窓会総会に合わせて会報を発刊することができそうで、ほっと胸をなでおろしているところです。

平成29年度岐阜高等学校同窓会総会の開催に伴う会報の発行に際し、広告のご協賛を賜りました皆様に厚く御礼申し上げます。

なお、ご紹介順序は会報の構成上、原則的に順不同となっております。何卒ご理解いただきませう、よろしくお願い申し上げます。

平成29年6月11日

岐阜県立岐阜高等学校同窓会
平成29年度総会運営委員会

今年度は、昭和49年卒、59年卒、平成6年卒のメンバーが集い、遠藤宏治運営委員長の言う「あの頃に戻って」知恵を絞りました。その結果、49年の卒業年度に創立100周年、59年は110周年、6年は120周年の節目の記念式典が行われたことをコンセプトに特集を組むことにしました。また、校歌や応援団国歌等が掲載された「歌集」を11年ぶりに再編纂することにしました。さらにドローンにより空撮された新校舎等の写真を掲載することにしました。1ページ、1ページにメンバーそれぞれの熱い思いを傾けたつもりです。会員の皆様方にはゆっくりとご覧いただきたいと思えます。

結びに、玉稿をいただきました恩師の先生方、同窓生の皆様方にお礼を申し上げますとともに、内木さんを筆頭に非力な私を支えてくださった会報部のメンバーの皆さんに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

同窓会総会運営委員会 会報部長 丹羽 章